



Snapshot

コピーを接続する場合のガイドラインを次に示します

Snapdrive for Unix

NetApp
June 20, 2025

目次

Snapshot コピーを接続する場合のガイドラインを次に示します.....	1
ホストクラスタ環境での Snapshot コピーの接続に関するガイドラインを参照してください	1

Snapshot コピーを接続する場合のガイドラインを次に示します

Snapshot コピーに接続するときは、次のガイドラインに従ってください。

- SnapDrive snap connect コマンドは、 SnapDrive 4.2 for UNIX で作成された Snapshot コピーに対してのみ機能します。
- 元のホスト上では、以前のバージョンの SnapDrive for UNIX で作成された Snapshot コピーの接続とリストアが SnapDrive for UNIX でサポートされます。
- NFS ディレクトリ・ツリーへの読み取り / 書き込みアクセスの場合、 SnapDrive snap connect コマンドは Data ONTAP FlexVol ボリューム機能を使用するため、 Data ONTAP 7.3 以降が必要です。 Data ONTAP 7.1 を使用した設定では、 NFS ファイルやディレクトリツリーを接続できますが、読み取り専用アクセスが提供されます。
- SnapDrive 接続処理中にコンフィギュレーション変数の `enable-split-clone` を on または 'Sync に設定し 'Snapshot 切断処理中に off' を設定した場合 'UNIX 用 は Snapshot コピーに存在する元のボリュームまたは LUN を削除しません
- Data ONTAP 7.2.2 の構成オプション `vfiler` の値を設定する必要があります。 vFiler ユニット内のボリュームまたは LUN の Snapshot コピーに接続するには 'vol_clone_zapi_allow' を "" に設定します
- ホスト構成が異なるホストでは、 Snapshot 接続処理はサポートされていません。
- Data ONTAP ではルート・ボリュームのクローンを作成できないため、物理ストレージ・システムまたは vFiler ユニットのルート・ボリュームへの接続に使用する SnapDrive snap connect コマンドは失敗します。

ホストクラスタ環境での Snapshot コピーの接続に関するガイドラインを参照してください

Snapshot コピーはホストクラスタ内の任意のノードから接続できます。ガイドラインに従って Snapshot コピーに接続します。

- SnapDrive snapshot connect コマンドは ' ホスト・クラスタ内の任意のノードから実行できますホスト・クラスタ内の任意の非マスター・ノードから '-deviceType shared オプションを使用して SnapDrive snap connect コマンドを開始すると ' コマンドがマスター・ノードに送信され ' 実行されますこれを実現するには ' すべてのホスト・クラスタ・ノードで 'rsh' または 'sh' access-without -password プロンプトが許可されていることを確認してください
- この処理で指定する複数のファイルシステムとディスクグループには、同じデバイスタイプスコープを設定する必要があります。つまり、 all を共有するか、 all を専用にする必要があります。
- raw LUN 上に NFS またはストレージ・エンティティを持つ SnapDrive snap connect コマンドはサポートされません
- 「-igroup」オプションは、 SnapDrive snap connect コマンドの「-deviceType」共有オプションではなく、「-deviceType」専用オプションでサポートされています。
- SnapDrive for UNIX は ' マスター・ノード上で SnapDrive snap connect コマンドを実行します共有ストレージエンティティを作成する前に、 マスターノード上に LUN を作成してマッピングし、すべての非マスターノード上の LUN をマッピングします。また、ホストクラスタ内のすべてのノードに対して igroup を作成および管理します。このシーケンス中にエラーメッセージが発生すると、 Snapshot 接続処理は失敗

します。

- SnapDrive snap connect コマンドを使用すると '次のストレージ・エンティティを接続できます'
 - ホストクラスタの共有モードまたは専用モードですでに存在する共有ファイルシステムまたはディスクグループ。
 - ホストクラスタ内でファイルシステムまたはディスクグループがすでに共有モードになっている場合でも、ホストクラスタ内の単一ノードに専用のファイルシステムまたはディスクグループを追加することができます。
 - ホストクラスタの外部のノードで作成されるファイルシステムまたはディスクグループの Snapshot コピー。
- 非マスター・ノードにすでに存在する専用ファイル・システムまたはディスク・グループは 'ディスク・グループの -destdg オプションとファイル・システムの -autoname' オプションを指定しないと 'ホスト・クラスタ内の共有モードで再び接続できません'

つまり 'ホスト・クラスタ内の非マスター・ノードの 1 つで 'ファイル・システムがすでに専用モードになっている場合は '-destdg および '-autoname` オプションを指定して SnapDrive snap connect コマンドを指定するか 'コマンドでデスティネーション・ファイル・システムを明示的に指定する必要があります'

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。